



NHO Nishigunma Hospital

# ウイズ

— No.65 —

平成24年 1月 (2012年)

編集 独立行政法人 西群馬病院  
発行 国立病院機構

電話 0279-23-3030

FAX 0279-23-2740

E-mail: nishigun@nng.hosp.go.jp

http://www.hosp.go.jp/~wgunma



穏やかな一年に！！ 管理課長 若林 信久

凧な洋上に新春の初日の出が昇ります。昨年は大震災の1年でしたが、今年こそは穏やかな1年の船出となりますようお願いを込めて！

独立行政法人 西群馬病院の基本理念  
国立病院機構

## 患者さまと共に考える医療

1. 専門性の高い良質な医療を推進します
2. 十分な情報を提供し、生活の質 (QOL) を尊重します
3. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します
4. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児(者)の専門病院として、社会に貢献します
5. 健全な経営と適正な運営に努めます

## 目次

- \* 年頭ご挨拶.....1
- \* 第9回市民公開セミナー報告.....2
- \* 第6回院内学会報告.....3
- \* 研修会報告.....4
- \* 歳事記～榛名湖イルミネーション～.....5

## シリーズ

- \* 診療科紹介.....6
- \* 健康シリーズ.....7
- \* 重症心身障害児(者)病棟だより.....9
- \* 医療安全管理室だより.....11
- \* 栄養管理室だより.....12
- \* ボランティアだより.....13
- \* ICT部会だより.....14
- \* 地域医療連携室だより (地域医療機関の紹介).....15
- \* がん相談支援センターのお知らせ.....16
- \* 診療方針・看護の理念.....17

# 平成24年 年頭ご挨拶

## 平成24年はチャレンジの年 —西群馬病院は、いよいよ移転・新病院に向かって始動します—

独立行政法人国立病院機構西群馬病院 院長 斎藤龍生



新たな年を迎え、平成24年が皆様にとって、良い年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

西群馬病院は、昨年11月に国の地域医療再生臨時特例交付金の内示を受け、いよいよ渋川総合病院との統合・移転計画を始動することになりました。新病院は、当院の持つがん診療連携拠点病院・地域支援病院・セイフティーネット（結核および重症心身障害児の療育）という政策医療の機能に、渋川総合病院の持つ救急・災害・感染症対応機能が整備されることとなります。群馬県の地域医療再生計画によると、新病院は「北毛地域の医療連携体制の基幹病院」という位置づけとなっています。

近年、地方での医師不足の中、医師の偏在は群馬県内でも加速しており、前橋・高崎地域に勤務医が集中する傾向が強くなっています。特に北毛地区では、群馬大学各科医局（医会）からの医師引き上げなどに伴い、地域病院の医師不足が深刻で、渋川総合病院も医師獲得に苦しんできました。

第6次群馬県保健医療計画によると、北毛地区（渋川、吾妻、沼田）は、がん診療連携拠点病院の数、t-PA実施可能医療機関数、冠動脈造影検査可能医療機関数、周産期母子センター数いずれも最低数であり、地域救急医療の充実が最も遅れている地域であることがわかります。今後も、医師不足の傾向は続くものと思われ、地域医療再生特例交付金が北毛地域に厚く交付された経緯もここにあります。医師不足が壁となり、北毛地区の各病院においては、「全ての救急患者さんを受け入れる救急体制」が、困難となっています。新病院は、「北毛地域の医療連携の基幹病院」として、「地域の各病院の得意とする救急分野」の病・病連携のネットワークを構築し、地域全体で支える救急医療体制作り

努めます。

地域医療への貢献というと、地域住民からは、救急医療の充実を求められることが多いと思いますが、がんは国民の死亡の第1位であり、今や一生のうち2人に1人が、何らかのがんに罹患するといわれております。したがって、がんは、救急搬送される病気と同様に、最も身近な病気といえます。西群馬病院は、県内で2施設しかない「がん専門病院」の1つであり、全国に先駆けて緩和ケア病棟（平成6年保険承認）を有しております。通常のがん診療拠点病院のように初回治療を中心に行うのではなく、再発そして末期がんの患者さんにも最期まで対応し、「がん難民を出さないがん診療連携拠点病院」として、地域住民の皆さんの期待に応えてまいります。

今後の当院の整備計画としては、平成24年度で用地取得施設整備詳細設計を行い、平成25年度に本体工事に着手、27年度開院を目指します。新病院の規模は現在の380床から450床となり、診療科の充実を図ります。移転先は、前橋からのアクセスの良さに加え、吾妻地域、利根・沼田地域からもアクセスが良好な地となる予定です。当院は平成25年度にDPCへの手上げを行い、平成27年度にDPCに本格参加を予定し、7：1看護体制、管理型臨床研修病院を目指します。北毛医療圏の地域医療の貢献に志を持つ医師を、広く募集いたしますので、特に北毛地域出身の医師の皆さんには、是非応援をお願いいたします。最後に、北毛地区の医師確保および医療連携に対して、群馬大学・群馬県・群馬県医師会のご支援をお願い申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成24年 元旦

# 第9回市民公開セミナーを終えて

薬剤科長 佐橋 幸子

第9回市民公開セミナーは、平成23年11月26日（土）アネーリ渋川（旧プリオパレス）にて行われました。紅葉真っ盛りの中、145名にご参加いただきました。

秋の市民公開セミナーは、恒例により、医師による各種がん相談や、骨密度・肺年齢・動脈硬化・血圧の測定、アロマケア、お薬・栄養・医療福祉相談など専門職種毎の各ブースにて、直接市民の皆様とお話できるコーナーを設けています。今回は、これらに加え緩和ケアや認定看護師の相談コーナーもありました。毎年人気のコーナーでは、整理券を配るなど皆様のご要望にこたえられるよう配慮しております。今後もたくさんのご参加を期待しております。

今回は「がん診療をささえる医療職から」というテーマで、当院の放射線科と医療福祉相談室からの講演がありました。放射線科からは、最近の話題として「放射線の基礎知識」について説明がありました。最近、ニュース等でよく聞く放射線関係の単位や言葉を、わかりやすく解説して、理解していただ

いた方も多かったようです。また、放射線とは悪影響ばかりではなく、食品や農業、そして医療分野でも使われているお話もありました。正しい知識を得ることが安心につながるのだと認識できました。

医療福祉相談室のがん相談支援センターのソーシャルワーカーからは、がん診療で悩んでいることや相談したいことについて、どのようにしたらよいか手助けになるお話でした。そして高額医療費制度の紹介がありました。自己負担限度額以上の医療費が補助される制度ですが、年齢によって違いがあるなど大いに役立つ情報満載でした。がん患者様はもちろん、ささえるご家族のための医療相談室です。ご連絡をお待ちしております。

私たちコ・メディカル（医師と協同して医療を行う病院職員）は、医師の診療をサポートし、より良いがん医療の提供ができるようチーム医療を推進しています。

今後も西群馬病院は、地域がん診療連携拠点病院としてよりよい医療が提供できるよう努力いたしますので、よろしくお願い致します。



院長挨拶



骨密度測定中

# 第6回 西群馬病院院内学会

事務部長 茂木 幸男

平成23年12月1日（木）、第6回院内学会が95名の参加のもと開催されました。座長は佐橋薬剤科長と土橋診療放射線技師長、後半は渡部副看護部長が担当し、各部門から9題の発表が行われました。

何れの発表も日々の業務の中での問題点や改善点をまとめ、限られた発表時間内で充実した内容であり、質疑応答も大変熱のこもったものとなりました。

院内学会は普段は知ることができない他部門の業務を知る上で大変貴重な機会でありました。

発表終了後の講評から伺えるように、各審査委員を悩ます事となりましたが、最優秀賞は鈴木契約係員の「特定保険医療材料と保険の請求について」が選ばれました。優秀賞は、櫻井医療安全係長と間島精神科医長でした。

最優秀賞ならびに優秀賞となった方には、奮ってQC活動奨励表彰へ応募をお願いいたします。発表演題は以下のとおりです。

1. 再発がんによる食道狭窄に対して開腹胃瘻を増設してNSTで栄養管理を行った2例（森山主任栄養士）
2. CRCによる臨床試験の業務支援とその効果について（野村製剤主任）
3. 内服薬投与に関するヒヤリ・ハット発生の看護師要因（櫻井医療安全係長）
4. 特定保険医療材料と保険の請求について（鈴木契約係員）
5. 抗がん剤治療を安全確実に実施するためのとりくみ（星野看護師長）
6. 肺癌症例における病理検査の現状（松本臨床検査技師）
7. 緩和ケアチームを立ち上げて（間島精神科医長）
8. 緩和ケアについての情報提供を受けた患者の意志決定プロセス決定に関する研究（八塩看護師）
9. 患者を「さん」と呼ぶことの看護師の意識変化（工藤看護師）



# 研 修 会 報 告

## ●赤城人財育成・交流研修を終えて●

診療放射線技師 宮下 慎也

平成23年9月26日～30日の4泊5日、国立赤城青少年交流の家にて、赤城人財育成・交流研修を受講させていただき、誠にありがとうございました。この研修会では他病院の他職種の方々との交流を通してとても多くのことを学ばせていただきました。

交流会では、所属病院を超えた医療従事者としての“輪”を広げていく良い機会になり、とても有意義な時間を過ごすことができました。赤城山の一つである鍋割山登山では、研修生全員が助け合い協力し合うことで全員が無事に登頂することができ最高の達成感と絆が生まれました。外部講師を招いての講義では、どんなに業務が忙しくても、「患者さんを思いやる気持ち」を常に忘れてはならないという医療人として最も大切な

事を再認識させられました。

今回の研修会で学んだこと感じたことを今後の業務に活かし、今まで以上に医療従事者として自己研鑽することで医療の質の向上に貢献していきたいです。



## ●赤城人材育成・交流研修に参加して●

12病棟看護師 五十嵐 裕

独立行政法人国立病院機構の赤城人材育成・交流研修に参加した。関東信越ブロック内の病院から看護師・薬剤師・栄養士等が集まった。研修の目的は規律正しい生活態度を会得し、自己の役割及び立場の自覚を養うことによって、医療従事者としての能率増進と患者サービスの向上を図ることであった。

研修内容として、スポーツ・登山・討議を通して、自分がどのように考えて行動すべきなのか、

自己の役割・立場を確認し行動した。講義を通して、国立病院機構関東信越ブロックの役割や各病院の経営状況について現状把握ができ、医療従事者として病院の理念を理解し取り組む事が必要であると気付いた。今後は、研修で得た人と人との関わり合いを大切にし、患者の目線に立った看護が提供できるよう努めていきたい。

## ●平成23年度良質な医師を育てる研修(腹腔鏡セミナー)を受講して●

外科医長 小林 光伸

平成23年9月9日(金)～9月10日(土)に東京都八王子市のオリンパスメディカルシステムズ(株)石川事業所内にあるM-TECで良質な医師を育てる研修(腹腔鏡セミナー)が開催され、この度受講して参りました。以前にも院長協議会主体で開催された同様の研修も受講した経験もありましたが、一日の研修プログラムであり実技研修が主なものでありました。今回は2日間に渡るプログラムであり、非常に充実した研修内容となっております。初日は講師陣からの腹腔鏡手術のポイントおよび手術器具の実際の使い方、動物を使わない腹腔鏡下の胆嚢摘出術およびヘルニア修復術のモデル

を手袋・風船などを用いて講師の先生方が熱心に作成されておりました。また、未来の腹腔鏡手術への展望として、未だ市販されていないオリンパスメディカルシステムズ(株)の3Dモニターを見せて頂き、実際に3Dモニター下に結紮器を使用した体腔内結紮を経験させて頂きました。翌日は例年のようにSPF豚を用いた腹腔鏡下胆嚢摘出・幽門側胃切除郭清・直腸切除術を経験させて頂きまして誠に有意義な研修であったと考えられます。今後も新しい治療手技を習得することによって患者様に良質な医療を提供できるよう、自己研鑽に精進していきたいと思っております。

歳時記

## 天まで届け光のページェント

～榛名湖イルミネーション～

管理課長 若林 信久

毎年12月になると、榛名湖の周辺にレーザーとイルミネーションでの幻想的な光のページェントが開催される。水面に映ったこれらは榛名湖その周辺を美しく飾ります。都会や市街地でのイルミネーションとは異なり、満天の星の下寒さも加わって一段と光り輝き、若いカップル、家族連れ、はたまたまた単身赴任の寂しい親父等見学者の心に強く印象付けられることと思っております。

また、榛名山ロープウェイが連日運行され頂上からは夜景、イルミネーションの両方を堪能できます。追伸：例年であれば9月から解禁される、榛名湖のワカサギ釣りが赤城山大沼を含め、東北の大震災による原発事故の放射能飛散により、今だ解禁されていません。私を含め愛好者や太公望は大変残念がっています。来年は2年魚も育ちさぞ多くの釣果や大型魚が期待できます。



湖面に影を落とすイルミネーションと満月



寒気に凛と輝くイルミネーション



## 外科系診療部長 横田 徹

乳がんは、年間発症者数5万人、年間死亡者数1万人を超える死亡率約20%の病気ですが働き盛りの若年者が多く、対策が重要ながんの一つです、また、甲状腺がんも先の東日本大震災による福島原子力発電所の放射能漏れにより社会的に関心が集まるようになりました。当院は地域がん拠点病院として二次医療圏に及ぶ乳腺・甲状腺治療を行い、その数は年々増加して2008年より乳癌手術患者数は年間50人を超えるようになりました。当院の5年、10年再発率（詳細はホームページをご覧ください）は、国内でも優れた成績であり、これらは以前の日経メディカルでも取り上げられました。さらに乳房温存療法率でも全国平均50~60%程度に比べて当院は80%以上と乳房温存率も高く、また、残存乳房内再発率も低く良好な成績です。他病院で温存治療は不可能と言われた患者さんでも最良の治療法をご呈示しますのでセカンドオピニオンに来院してください。

次に2010年4月より保険適応となったセンチネル（癌の見張り）リンパ節生検については当院は県内でもいち早く取り組んでいて、現在、手術中迅速病理診断にて転移のない患者さんは腋窩郭清省略による手術を行っているため、乳癌手術後合併症軽減や入院期間短縮などの恩恵が受けられます。腋窩郭清省略後の腋窩リンパ節再発は施行から10年経過した現在でも1例もありません。

このように乳がんの治療は年々進歩していますが、現在でも再発乳がんの完治は困難な状況です。当院では日本中の保険適用の乳がん治療薬が薬価収載と同時に使えるようになります。これらの治療の取り組みによって10年前と比較して、再発乳がんの患者さんの生存期間が約2倍になりました。今後もさらに延びていくと思われます。病院間格差のある再発乳癌患者さんの生存期間および生活の質（QOL）の維持のため当院では患者さんに合った最新の治療法を検討してQOL向上に努めています。また充実した緩和ケア病棟を備えていて、患者さんの自主性や生き方を尊重した治療にもご相談に応じます。

もう一つの部門、甲状腺診療では、甲状腺がんなどの悪性腫瘍、腺腫などの良性腫瘍の治療の他、バセドウ病の3種類の治療（薬物、手術治療、アイソトープ治療）を行っています。また、橋本病などの甲状腺機能低下症、腺腫様甲状腺腫など当院へは広範囲の医療圏からたくさんの患者さんが紹介されて来院しています。

### がん検診を「地域がん診療連携拠点病院」で受けてみませんか。

#### 検診の種類

★肺がん検診（ヘリカルCT、喀痰細胞検査） 費用 10,000円（消費税込み）

※肺がん検診はCT検査のみの場合7,000円（消費税込み）となります。

★消化器がん検診（胃・十二指腸ファイバー、腹部超音波検査、便潜血反応、直腸指診）費用 15,000円（消費税込み）

※ただし、オプションとして、1.肝炎検診（2,000円（消費税込み））2.糖尿病・高脂血症検診（1,000円（消費税込み））を付加できます。

ご予約・お問い合わせ

地域医療連携室 電話0279-23-3294

※群馬県内では、西群馬病院と他7病院が「地域がん診療連携拠点病院」に指定

我が国に多いがん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん等）について、住民がその日常生活圏域の中で全人的な質の高いがん医療を提供できる病院

副院長 蒔田 富士雄

### 肝がん（肝細胞がん）とは

肝がんは原発性と転移性に大別されます。そして原発性肝がんは肝細胞がんと肝内胆管がんに分けられます。一般的に肝がんとは肝細胞がんを指し、転移性肝がんや肝内胆管がんとは病態、治療方針が大きく異なるためきちんと区別する必要があります。

### 肝細胞がん（以下肝がん）の疫学

肝がんは年間3万4千人の方が亡くなり、最近はやや減少傾向にあります。男性に多く女性の約2.5倍ですが女性の肝がんにかかる人が増加しています。臓器別死亡者数から見ると肝がんは男性で第4位、女性で第6位に位置しています。

### 肝がんの原因

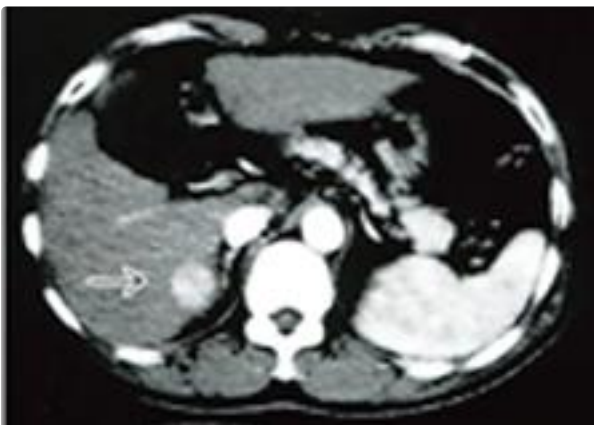
肝がんは肝炎ウイルスの持続感染にもとづく慢性肝炎、肝硬変から高頻度に発生します。特に日本では肝がん患者さんの約70%がC型肝炎ウイルス陽性、20%の患者さんがB型肝炎ウイルス陽性です。アルコールの過飲からも肝硬変になりますが、最近是非飲酒者で、肥満、糖尿病、高脂血症、高血圧などいわゆる生活習慣病を背景とした脂肪性肝炎から肝硬変に進んで一部肝がんを発症する例の報告もあります。

### 肝がんの症状

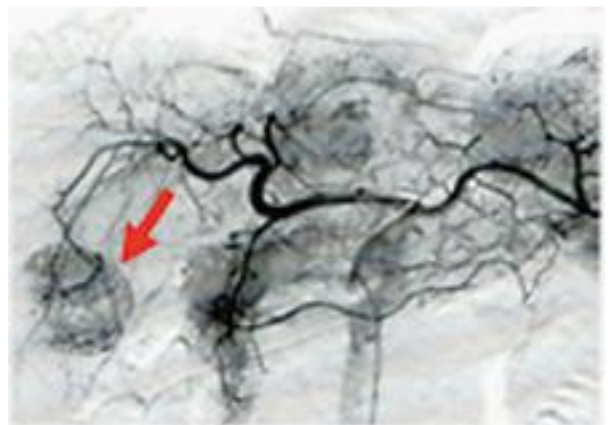
肝臓は「沈黙の臓器」と言われ、通常痛みを感じないので異常の発見も遅れがちになります。肝がんの症状は肝炎や肝硬変が背景にある場合が多いため、比較的初期では食欲不振、全身倦怠感、体重の減少、上腹部の重苦しい感じなどが出てきます。がんが進んでくると黄疸がでたり、食道の静脈が破れて（食道静脈瘤破裂）大量の吐血をみることもあります。

### 肝がんの診断

肝がんの発見には肝炎ウイルス感染患者の定期的スクリーニングが必要です。定期的スクリーニングとして腫瘍マーカー（AFP、PIVKA-IIなど）の検査を2～3か月に一度、腹部超音波検査（エコー）を3～6か月に一度検査し、必要があればCTやMRIを追加して行います。肝がんの確定診断するために入院して血管造影検査や超音波ガイド下腫瘍生検が行われる場合もあります。



腹部CT



血管造影

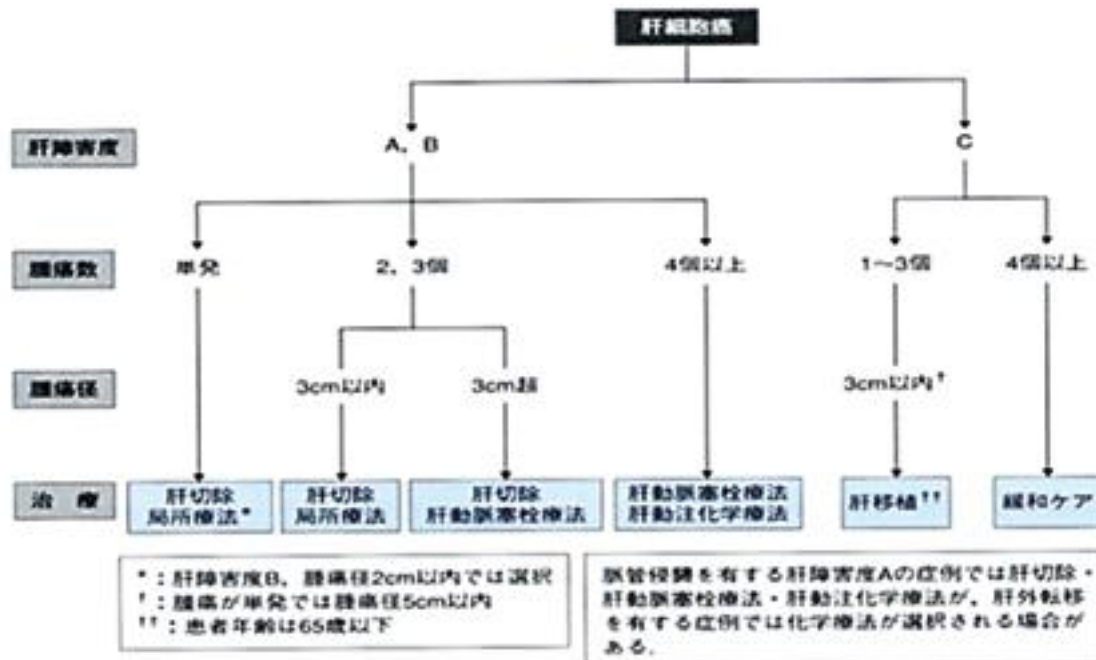


## 肝がんの病期

肝がんの病期は、大きさ、腫瘍の個数、血管侵襲（がんが血管の中に入り込んでいる状態）の有無、リンパ節転移や他の臓器への転移の有無で決定されます。ステージ分類は1から4までの4段階に分けられており、数字が大きいほどがんが進行していることを意味します。

## 肝がんの治療

肝がんの治療は、肝切除、局所療法（経皮的エタノール注入療法、ラジオ波焼灼療法など身体の外から針を刺して行う治療）、肝動脈塞栓術（肝がんは肝動脈から栄養されることが多く肝動脈を一時的に塞栓してがん細胞を死滅させる方法）の3療法が中心に行われます。この他にも重粒子線など放射線治療や化学療法（抗がん剤や分子標的薬）があり、また生体肝移植が行われることがありますが、まだそれぞれには対象が限られていて誰にでもできる訳ではありません。そして各々には長所・短所があり、一概に優劣をつけることはできません。治療法の選択に際しては、がんの進行度や肝機能の状態などの条件を十分に考慮した上で選択されるべきで、下図の「肝細胞癌治療アルゴリズム2009年版」はそのための指標になっています。また、肝がんは再発することも多く、実際はこれらの治療法を組み合わせることで集学的に治療が行なわれています。



肝障害度は、患者さんの肝機能の程度を表す指標で、肝障害度Aは良好な肝機能であり、肝障害度Cは肝機能が悪い場合となります。

## 肝がんの予防

当然肝炎にならないようにすること、過度の飲酒を控えることが重要です。検診で肝機能障害を指摘されたら肝炎ウイルス持続保持者であるかどうか確認することも重要で、もし肝炎にかかっていることが確認されれば肝臓内科専門医にかかり検査を受けることが重要です。

# 重症心身障害児(者)病棟だより

## 光り輝く重症心身障害児(者)と共に

療育指導室主任保育士 真保 純子

保育士・養護教諭など医療、福祉、教育の連携で日々の生活をサポートしながら利用者のQOL向上を図っています。

私たちが利用者に関わる上でいつも大切にしていることは、糸賀一雄先生の言葉です。先生は、近江学園や琵琶湖学園の創設者であり、日本の障害者福祉を切り開いた第一人者で、「この子らを世の光に」という信念をもって福祉と教育にあたってこられました。「この子らに世の光を」という、「障害児者を哀れみの目で見つめて光をあててやろう」という考えではなく、「この子らはもともと太陽や星のように自分自身で光っている、さらに光り輝くよう磨いていこうではないか」という積極的な関わり方の理念が刻み込まれています。

重症心身障害病棟へは、年間多くの実習生やボランティア、見学者などが訪れ、「笑顔に癒されます」「勇気をもらいました」「生きる力を感しました」「私も一生懸命頑張らなくては」「また会いに来たいです」など感激・感動の言葉を残し、心を揺さぶられ帰って行きます。これこそが糸賀先生の言葉であり、先生の思いが脈々と受け継がれていることを実感する瞬間でもあります。これからも重症心身障害児(者)の光を多くの人に届け、私たちが共に輝く毎日を過ごしたいと思います。

今年、来棟された方々と利用者様の笑顔の一部を紹介します。

保育士実習

パラシュートと風船  
ゆらゆらおもしろい



看護実習

保育士と一緒に  
音楽療法に参加  
頭はどこなあ



見て・見て  
これな～んだ！



高崎健康福祉大高校生



二葉養護学校父兄  
病棟見学



寄り添い  
ボランティア



車椅子操作って難し～い  
高い段差は、怖いな～

ボランティアさん大好き  
私もだ～い好き



動物ボランティア



かわいいワンちゃんとお友達になれましたよ

上州尾根下連  
八木節保存会



軽快な曲と踊りに感動しました。  
かっこよかったな。



利用者様の写真使用についてはご家族の同意を得ています。

# 医療安全管理室だより

医療安全管理係長 櫻井 益代

厚生労働省では、平成13年から毎年11月25日（1 いい 1 いりょう 2 にむかって 5 ご一）を含む1週間を、医療安全週間として定め安全文化の醸成に努めています。この取り組みは、平成11年に相次いで発生した大きな医療事故を受け、安全対策を推進するために、当時自らも医師である「坂口 力」厚生労働大臣が旗振り役となって、対策を勧められ今日に至っていると聞きました。

当院では昨年に引き続き、医療安全週間に合わせた催しを行いました。11月24日（木）1つ目は、「輸液ポンプ・シリンジポンプの適正使用と電気系統の管理」と題し、テルモ株式会社の講師による教育講演会を開催しました。当院の診療機能の特徴上、抗がん剤治療の一部やセデーション、疼痛コントロールに輸液ポンプ・シリンジポンプ（小型シリンジポンプを含む）を主に使用します。「今回の講演を聞き知っているようで知らないことが多かった」と参加者から感想がありました。「流量制御方式・滴数制御方式や、輸液ポンプの送液原理について。またシリンジポンプの安全機構の仕組みを改めて理解することができました」との感想もありました。からくりをきちんと理解することで、安全な輸液管理ができるのです。

2つ目は、各部署における今年最も力を注いでいる安全対策や、改善した事項について啓蒙ポスターを作成しました。18の部署から提出があり、医療安全推進ポスター展を行いました。11月早々から、管理棟2階の廊下に展示された力作を十分に観たうえで、11月24日、講演会会場にて出席者のみが優秀作品に投票できます。年々力作が増え、今年は接戦でした。1位には2つの部署が同点となり、優秀賞が決定しました。「仕事はつらいこともあるけれど、ポスター展は楽しかった。また来年も行って欲しい」というアンケート結果がありました。医療安全対策は押さえるところは押さえ、日々楽しく取り組みたいものです。また来年用に楽しい企画を考えましたのでご期待ください。



1位の作品



## 栄養管理室だより



### — 今日の料理は郷土料理 —

管理栄養士 森山 裕

鍋物のおいしい季節です。よせ鍋、すき焼き、おでん、しゃぶしゃぶ……。そして忘れてはいけない群馬県の郷土料理「おきりこみ」も、体が温まる鍋料理の一つです。この冬もすでに何度も楽しんだ方も多いと思います。



郷土料理とは、その地方特有の料理の事をいい世界各地にあります。日本でも、その土地に古くから伝わってきたさまざまな郷土料理が数えきれない位あります。南北に長い島国ということもあり海の幸、山の幸もバラエティーに富んでいます。特に江戸時代には、鎖国制度において、国内それも藩ごとに独特な地方文化を生み、料理も地方色を発達させ、さらに風習や家庭の事情も合わせて、材料の持ち味を活かした食べ方や楽しみ方、保存の仕方などを考慮したといわれています。最近では、料理店などでプロの料理人によってつくられた名物料理・郷土料理として食べられるものもありますが、本来は家庭の日常の食事として生まれたもので、その家庭に代々受け継がれてきたものです。



「おきりこみ」も、県内の地域によって具材や味付けが違いますし、さらに各“家庭の味”があることと思います。当院でも、寒い季節には「おきりこみ」をだしています。慣れ親しんだ家庭の味に近づけるように調理師がこころを込めて作っています。



西群馬病院特製おきりこみ

# ボランテ ィア だ よ り

医療福祉相談室 山田 尚子

平成23年11月11日（金）、当院において「第6回ボランティア活動感謝の集い」を開催しました。この集いは、当院で活動をされているボランティアさんに対し、感謝の意を表すとともに、ボランティアさん同士の懇親の場を設けることを目的として開催され、今回で6回目となりました。

当日は、あいにくの雨の中、35名のボランティアさんにご参加をいただきました。

感謝の集いは、斎藤院長先生からのお礼のご挨拶後、ご参加いただきましたボランティアさんへ表彰状・感謝状をお渡しさせていただきました。

その後の懇親会では、それぞれのボランティアさんの活動内容を紹介していただき、交流を深めたり、情報交換をしていただきました。また、参加ボランティアさんによる素敵な琴の演奏や、マジックショーとマジック指導もしていただき、懇談会は大変盛り上がり、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

当院では、たくさんのボランティアさんが活動をされていますが、その活動内容は様々で、病院の総合案内や環境整備、病棟でのイベントボランティアや押し花等の作品の展示など、心のこもった活動をして下さっています。日々、笑顔で接してくれるボランティアさんの存在は、患者さんにと

って、とても大きいものだと感じています。そんな皆さんが活動しやすいよう、当院も尽力してまいります。

今回ご参加いただきましたボランティアの皆様、本当に有難うございました。お忙しい日々をお送りのこととは存じますが、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



# ICT部会 だより

## 針刺し事故

臨床研究部長 澤村 守夫

医療従事者が患者血液の付着した器具によって生じる事故、針刺し事故は、日常の診療行為のなかで常に起こりうる。血液中に存在する病原体すべてが感染する可能性があり、特にHBV(B型肝炎ウイルス)、HCV(C型肝炎ウイルス)、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)、梅毒が問題となる。すべての血液は感染源でありうるとの認識で対応することが重要である。

日常的な事故防止対策として、(1)観血的な医療行為を行う際には、医療従事者は手袋、ガウン、ゴーグルなどの防御を考えた準備をして行う。(2)術中は可能な限り刃物の先に指などが出ないようにする。(3)刃物の操作は最大限注意を払って行う。(4)使用済み器具はできるだけ速やかに水洗いするか、消毒液あるいは水にひたす。(5)針や刃物の使用後は、専用容器に決められた方法に従って廃棄することが重要である。

針刺し事故に対する基本的な対応として、(1)外傷に気づいた時点で、できるだけ速やかに流水で傷口を洗浄するとともに血液を絞り出す。(2)その後に傷口を消毒薬を用いて消毒する。(3)患者がHBV、HCV、HIV、梅毒の患者であるかどうかを確認し、結果によって個々の対応をとる。(4)責任者に連絡するとともに、記録を残すことが重要である。

### HBV感染防止

医療従事者はほとんどすべてHBVワクチン接種者と考えられるので、HBV針刺し事故時の対応として、原則的にはHBワクチンの追加接種1回のみで十分と考えられている。HBワクチン未接種者の場合はHBワクチン接種とともに、事故直後できるだけ速やかに(48時間にとらわれることなく)HBIG(高力価HBs抗体含有免疫グロブリン)の筋注が必要である。

### HCV感染防止

HCV感染に対しては特異的に予防する方法はない。HCV針刺し事故後は月1回、ALT、時にHCV-RNA検査を加えて、6か月から12か月間の追跡を行う。

### HIV感染防止

予防内服を事故後1-2時間以内に開始することによって感染確率は低下する。予後内服は基本治療あるいは拡大治療を行う。2者の選択は、判断が困難な場合は拡大治療を優先して開始する。その後、専門医師と検討して、基本治療か拡大治療の適応を判断して対応する。予防内服は4週間続け終了する。その後、HIV感染がないことを確認する。万一、HIV感染が確認された場合、HIV治療を開始する。

針刺し事故後の感染率はHBV、HCV、HIVの順で30%、3%、0.3%と低下するものの、感染症が発生してからでは完治は困難となってしまう場合がある。針刺し事故防止と発生時の速やかな対応が非常に重要である。

# 地域医療連携室だより 地域医療機関の紹介

菊地医院 院長 菊地 鐵郎

私は榛東村山子田で内科を開業しております。生まれも育ちも榛東村(旧桃井村)です。父がやはり榛東村で内科医をしておりましたので、私は2代目となります。私は大学は岩手盛岡にあります岩手医大の出身です。群馬へは、昭和47年に帰ってまいりました。以後村の開業医として診療にあけてしております。渋川医師会には、昭和47年から加入させていただき、少しずつ医師会の諸事を教えていただきました。現在は施設の嘱託医の仕事もしております。その為当院は火木土の午後は休診となっております。まあ年令相応の診療体制と言うところです。

ところで私も母校が岩手盛岡ですので、今回の大地震では数々の事柄を見聞きました。大学の同窓会員では9名の方々が犠牲になっています。又本年8月の時点で診療不可能の医療機関は約500前後あったと聞いております。これから東北地方は寒期となってきます。感染症など、増加しなければよいがと思っております。いまだ医療も、地域の生活も以前の様には充分回復していないと思われまます。その中で地域の医療を支える看護や医療の方々、又患者さん達にとっては、しばらくは厳しい時をすごす事になるかと思えます。同窓のドクターからこんな話をされました。「結局病気を治すのは、患者さん自身なんですよ。」「医師はその病気の患者が回復するのを手伝ったり、よりそったりするだけだ。」「患者を治したのは俺だ、なんて思い上がりだよ。」といわれ



菊地院長

ました。医療の原点に帰った、医師の貴重な教訓として、心に響く言葉でした。医療はいかに多くを診たか、よりもいかに心をこめて診療したか、が大切なのもかもしれません。

とりとめのない文章になってしまいましたが、反省も兼ねての最近の思いをつづってみました。(老医の独り言です。)

菊地医院

〒370-3502

北群馬郡榛東村山子田884

TEL 0279-54-3346

内科



# 独立行政法人国立病院機構西群馬病院 がん相談支援センター

## ご相談方法

- 電話相談・窓口相談は、**事前予約制**になっています。  
相談予約受付は、  
地域医療連携室 担当:山田(医療ソーシャルワーカー)・山浦(医療ソーシャルワーカー)  
**電話 0279-23-3294 又は0279-23-3030(代表)内線217-487-214まで**  
**(受付時間は、平日9:00~17:00です)**
- メール相談は、下記にて終日受け付けておりますが、回答は若干の日数を要する場合がございます。  
**E-mail : nishigun@nng.hosp.go.jp**

## 各種がん分野の相談日時

(電話・窓口相談は予約制です。相談は無料です。窓口相談はお一人30分以内でお願いします。)

	分野	相談員	電話相談				窓口相談				メール相談
			曜日	時間帯	曜日	時間帯	曜日	時間帯	曜日	時間帯	
1	肺がん	斎藤 龍生	火	10:00~12:00	木	10:00~12:00	月	15:00~15:30	水	15:00~15:30	月から金
		富澤 由雄				火	13:00~14:00	金	13:00~14:00	月から金	
		川島 修				木	9:00~10:00			月から金	
2	乳がん・甲状腺がん	横田 徹	水	14:30~16:30	金	13:00~14:00	水	14:00~16:30	金	13:00~14:00	月から金
3	食道・胃・大腸がん	小林 光伸	金	13:00~14:00			金	13:00~14:00			月から金
4	肝臓・胆・膵がん	蒔田富士雄	金	10:00~12:00			木	13:00~15:00			月から金
5	血液・造血器がん	澤村 守夫	月	13:00~14:00							月・火・水
6	緩和ケア(ホスピス)	小林 剛	火	13:00~14:00			火	13:00~14:00			月から金
7	その他(1~6以外)	蒔田富士雄	金	10:00~12:00			木	13:00~15:00			月から金

\*メール相談の受付時間は、9:00~17:00

## セカンドオピニオン担当医表

科別	予約時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
呼吸器内科 (肺腫瘍)	午後2時~	-	富澤 由雄	-	-	-
	午後3時30分~	斎藤 龍生	-	斎藤 龍生	-	-
呼吸器外科	午前中	-	-	-	川島 修	-
血液内科	午後2時~	澤村 守夫 松本 守生	-	-	澤村 守夫 磯田 淳	-
乳腺・甲状腺科	午後2時30分~	横田 徹	-	横田 徹	-	-
消化器外科	午前中	蒔田 富士雄	-	-	蒔田 富士雄	-
放射線科	午後3時~	-	松浦 正名	-	-	-
緩和ケア科	午後	-	-	小林 剛	-	小林 剛

対象者：原則として患者さま本人、患者さまの同意を得た家族  
お問い合わせ先：TEL0279-23-3294 地域医療連携室(直通) 費用：30分毎に5,250円

# 診療方針

- 1.がん、特に肺がん・肝がん・造血器腫瘍等を中心とした悪性腫瘍の診断治療を一層強化する
- 2.結核患者の県内拠点病院として質の高い医療を提供する
- 3.重症児（者）の療育については、各職種の連携を密にし、チーム医療の充実を図る
- 4.PCUについては、患者の満足度の更なる向上を目指して、全人的ケア（肉体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛に対するケア）を充実させる

## 看護の理念

患者さまの立場にたった最善の看護

- 1.患者さまの生命および人権を尊重します
- 2.安全で適正な看護に努めます
- 3.思いやりと真心をこめて看護します
- 4.患者および家族の皆様と共に考える看護に努めます
- 5.知識・技術を向上させ、専門性の高い看護を志します

## 患者さまの権利

- 1.最善の医療サービスを受ける権利
- 2.人格・人権を尊重される権利
- 3.知る権利
- 4.自己決定権
- 5.プライバシーを保護される権利

## 外来診療担当医表（平成23年7月1日～）

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医
消化器内科	5診	オオツカ トシユキ 大塚 敏之	5診	タカムラ ノリアキ 高村 紀昭	5診	オオツカ トシユキ 大塚 敏之	5診	ヤマザキ クンダイカンゾウ 山崎(群大肝臓)(AM)	5診	イリエ エミ 入江 江美
呼吸器内科	7診	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	7診	カミテ 群大(上出)	7診	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	7診	トミザワ ヨシオ 富澤 由雄	7診	ヨシノ レイコ 吉野 麗子
	8診	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘	8診	ミウラ ヨウスケ 三浦 陽介	8診	ツチヤ ユキコ 土屋友規子	8診	ニシオカ マサキ 西岡 正樹	8診	ワタナベ サトル 渡邊 寛
血液一般内科	3診	マワタリ モモコ 馬渡 桃子	3診	サワムラ モリオ 澤村 守夫	3診	マツモト モリオ 松本 守生	3診	マツモト モリオ 松本 守生	3診	サワムラ モリオ 澤村 守夫
	4診	イソダ アツシ 磯田 淳	4診	ミヤザワ ユリ 宮澤 悠里	6診	マワタリ モモコ 馬渡 桃子(PM)	4診	イソダ アツシ 磯田 淳	1診	血液内科 (新患のみ)
消化器外科	2診	マキタ フジオ 蒔田富士雄(AM)	6診	コバヤシ ミツノブ 小林 光伸			2診	マキタ フジオ 蒔田富士雄	4診	オカノ タカオ 岡野 孝雄(AM)
	6診	コバヤシ ミツノブ 小林 光伸								
呼吸器外科					6診	カワシマ オサム 川島 修(AM)	6診	カケガワ セイイチ 懸川 誠一(AM)	6診	カワシマ オサム 川島 修(AM)
乳腺甲状腺			2診	ヨコタ トオル 横田 徹	2診	ヨコタ トオル 横田 徹			2診	ヨコタ トオル 横田 徹
	2診	ヨコタ トオル 横田 徹(PM)								
緩和ケア	6診	コバヤシ ゴウ 小林 剛(PM)			4診	コバヤシ ゴウ 小林 剛(PM)			4診	コバヤシ ゴウ 小林 剛(PM)
整形外科									6診	ワタナベ ヒサオミ 渡辺 秀臣 (第一PM入院のみ)
精神腫瘍科	外来 指導室	マジマ タケヒコ 間島 竹彦								
放射線科	放	マツウラ マサナ 松浦 正名								

新患・再来予約外 受付時間 8時30分～11時00分  
※担当医が変更になる場合もございますので事前に電話でご確認下さい。

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年は「東日本大震災」があり、その影響で計画停電や夏期の電力不足、そして毎年のようにある猛暑といろいろなことがありました。今年はそのような災害のない良い年になってほしいものです。被災地の方々は今も大変な暮らしをしているわけですが反面、防災意識・省エネ意識が非常に高まりました。備えあれば憂いなし！また、西群馬病院には移転の計画もあり、正式決定すればその為の準備作業が始まり忙しい年となることが予想されます。とにかく今年が良い一年になることを期待し、われわれウィズ編集委員もがんばっていききたいと思います。

(J・H)

独立行政法人 国立病院機構西群馬病院

〒377-8511 群馬県渋川市金井2854 TEL 0279-23-3030 FAX 0279-23-2740 <http://www.hosp.go.jp/~wgunma>